

08 恋愛以外のブロックに気づくことが、 恋愛無双になるための第一歩

受講生を無敵の「恋愛無双」へと導くうちに気づいたのは、恋愛以外の領域で生まれたブロックの存在です。

ずっと抱えていた恋愛の悩みを引き起こしている原因が、実は父親との関係にあるケースや、子どもの頃の仲間はずれや同級生からのからかい、職場でのモラハラ・パワハラにあるというケースは意外と少なくないのです。

一般的に恋愛・婚活は男女の関わりの上に成り立っています。

そもそも「男性」という存在に対してのマイナスイメージが深層心理にあると、無意識のうちに関係が発展しないようにブレーキをかけてしまっています。

もしもあなたが男性に対して無意識のマイナスイメージを少しでも抱いているのなら、恋愛がうまくいかないのも当然のこと。

だって、怖くてよくわからない存在と仲良くなりたい人なんているでしょうか？

たとえば子どもの頃から、父親に対して言いたいことを言わずにひたすら我慢している母親の姿を見て育つと、「男性は思ったことを伝えてはいけない存在である」「女性是我慢していかないといけない」と深層心理にインプットされてしまいます。

そこから、学生時代に男子同級生から「お前って身長高いから男みたいだよな」とからかわれて傷ついた経験をする、「私には女性らしい振る舞いはふさわしくない」という思い込みも加わってしまいます。

そういった過去を経て大人になると「男性に対して思ったことを言えない」「女性らしいと自分が感じるような言動ができない」「男性に甘えられない」というブロックが発生します。

実際に自分の恋愛シーンで起きた出来事ではないのですが、その時にできたブロックが根強く残っていると、今、目の前のデート相手に対しても素直にコミュニケーションがとれなくなり、甘えられない・本心とは違う行動をとってしまいます。

そういつたブロックを、恋愛だけでなくあらゆる角度から根こそぎ捨て去ることで、
今までも存在していたのに視界にすら入らなかった、「男性からの愛を受け取る力」
が飛躍的に高まり、恋愛無双に進化することができます。

09 世の中には障壁と なっている 意外なものがあった

では、具体的にどんな出来事が原因でブロックが発生しているのかというところ……。
もう、書ききれないくらいたくさん事例があります！ これらはすべて受講生のお悩みを解決する中で見聞きをしたものばかり。実体験だけでなくテレビやネットニュース・SNSでふと目にした情報さえもがあなたの障壁になっていることもありま
す。

◆家庭・夫婦

両親の不仲や不倫、嫁姑問題、厳しすぎる躾、虐待、過干渉、両親からの期待、兄弟姉妹と比較されて育った、褒められた経験が少ない、上下関係のある夫婦・家族関係、教育方針、経済的不安（またはそれを感じさせる出来事）など

◆ 学生時代

いじめ、仲間はずれ、転校、スクールカースト、失恋、同級生のからかい、嫉妬、周囲の友人との家庭環境の違い、受験の失敗、コンプレックス、教師の発言 など

◆ 職場

パワハラ、モラハラ、セクハラ、上司の発言、職場での競争、人間関係、職種・雇用形態へのコンプレックス、業務内容・職位からくるプレッシャー、男女差別 など

◆ 過去の恋愛

失恋、浮気、相手の心変わり、モラハラ、DV、依存的な関係、束縛、過干渉、恋愛経験のなさへのコンプレックス、セフレ経験、ストーカー被害 など

◆ 性

セックスでのトラウマ、妊娠に関する男性とのトラブル、堕胎経験、セクハラ、性犯罪被害、性的マイノリティ、性から遠ざけられて育った、体のコンプレックスなど

◆ ニュースやメディア

男女差別、ジェンダーに焦点の当たった情報、男女交際・結婚に関するニュース

このように恋愛に関係することだけでなく、過去のあらゆる経験がブロックの原因となり得るのです。

次に、このような出来事・経験がブロックとなっていた受講生の実例をご紹介します。

10



CASE1

同級生からの いじめにあったA子さん

小学校低学年の時に同じクラスの男子生徒から「デブ」「キモい」「ブス」と言われた経験のあるA子さん。

活発な性格だったので、クラス委員に立候補して授業でもよく発言していたら、同じクラスの友達から仲間はずれにされた時期がありました。

特に男子生徒からの「菌がつく」などの悪口は毎日のように続いて、授業やイベントで男女ペアになる時にあからさまに嫌な顔をされることもあり、ものすごく傷つきながらも親に心配をかけたくない一心で登校していたそうです。

その時の経験から「男の子は意地悪」「男の子は怖い存在」「私は嫌われるし愛されない」「私は皆より劣っている」「私は汚い」という思い込みができてしまいました。

その後は女子校・共学の大学を卒業して社会人になったA子さんですが、恋愛をし

てみたいと思っても彼はできず、自分に自信が持てないまま。そんな自分をなんとか変えたいとハイスぺ総研の主宰する恋愛婚活塾に入学されました。

過去の経験を一緒にひもとくうちに浮かびあがったのは、この時のいじめの経験が大きな影響を及ぼしているということ。

「男性は怖い」「私は愛されない」という思い込みが強固なので、男性と距離を近づけることや、相手からの好意を受け取ることにどうしてもブロックが発生してしまっていました。

A子さん自身はとても可愛らしくて聡明な女性で、自分がどうするべきかも頭ではわかっています。

いじめられた男子生徒と目の前の男性はまったくの別人だとはわかっていても、その時のヒリヒリするような心の痛みを二度と味わいたくないので、心を守るために無意識のうちに男性を遠ざけようとしてしまうのです。

出来事自体は十数年前のことなのに、その時にできたブロックは大人になってからも恋愛や人間関係の邪魔をし続けます。

きちんとその時の傷と向き合って、思い込みを書き換えたA子さんは、現在デートでモテ無双中。

キュートな魅力が開花し「男性って優しいんですね」「こんな風に好かれて褒められるのが当たり前になるなんて」と、驚きの表情！

それくらい、ブロックを外すと恋愛事情が激変するのです。

11



CASE2

会社で日々モラハラ被害を 受けているB子さん

会社の男性上司からモラハラを受けていたB子さんも、ブロックにより恋愛に行き詰まっていた女性の1人です。

明らかにキャパオーバーな仕事を割り振られて連日残業をしても終わらず、帰宅は深夜に。

少しでもミスがあると感情的に責められることもありました。

時には「だから彼氏ができないんじゃない？」とプライベートについて口を出されても、これ以上状況を悪化させたくないとじつと黙っていました。

そしてこの職場での出来事を一緒に深掘りしていくと、「男性に逆らってはいけない」「我慢しないといけない」という思い込みをBさんが持っていたことがわかっ
てきます。

B子さんの父親は怒りっぽく、気に入らないことがあると声を荒げて感情的になることが多い男性でした。

そんな父親に対して母親はひたすら機嫌をとり我慢する、感情の波がおさまるまでじっと耐えるというのが日常の風景でした。

その様子を小さい頃から見て育ったB子さんは「男性はすぐに感情的になる」「男性は怒りっぽくて怖い」「女性は我慢して合わせないといけない」という思い込みができ、人間関係の大前提としてインストールされていました。

恋愛ではそれが「男性に自分の意見を言っではいけない」「男性にノーと言っではいけない」というブロックになり、彼ができてみてもひたすら相手に合わせて我慢する→男性がB子さんを雑に扱うようになる→耐えられなくなり別れる、というパターンを繰り返していました。

まず家庭での出来事・職場でのモラハラによってできた心の傷を癒して、少しずつ思い込みを書き換えていったB子さん。

勇気を出して上司に「この仕事はキャパ的にできない」「仕事量を調整してほしい」と伝えると、なんと残業がほぼゼロに！ モラハラもなくなり会社での評価もキープしたまま、デートの時間ができて優しい彼と同棲がスタート。

家族関係から生まれたブロックが職場での出来事でさらに強化されていたのですが、そのブロックを外したら「男性には思ったことを伝えたほうがうまくいく」「男性は理解があって優しい」という世界に一気に変わったのです。

12 ♥ CASE3

いい子でい続けたC子さん

C子さんは母親の教育でたくさんさんのブロックができてしまった、典型的な「いい子でいなきゃ症候群」の女性でした。

専門職で一芸に秀でた才能を持つC子さんは、子どものころから得意なことは満点以上の結果が出せるけれど、集中力に波があり遅刻や忘れ物も多いタイプ。

そんな娘を心配してか「あんたは人並み以下なんだから、人の3倍頑張らないとダメよ」「そんなんじゃない社会でやっていけないよ」「ちゃんとしないと結婚できないよ」と毎日のように母親に言われ、器用な妹と比べられてほとんど褒められずに育ちました。

それにより「私は劣っている」「ミスをする私はダメだ」「私はダメだからしつかりしなきゃ」と強く思い込んでいたので、ミスのないように気を張っては胃が痛くなり、

大事な仕事の前日はプレッシャーで眠れなくなることも。

どんなに周りから褒められてもたった一つのミスが気になり落ち込むというスパイラルに陥っていました。

恋愛では、それがコミュニケーションで正解を探す癖・相手の顔色をうかがう癖としてあらわれてしまい、男性とうまく関係が築けません。

ダメな回答をしないように、ということばかりが気になり自分の気持ちを男性に伝えられないのです。

婚活にしても「私は劣っている」という前提なので相手が素敵な男性であるほど引け目を感じてしまいました。

「自分を表現できない」という強烈なブロックは、「私は劣っている」「ミスをする私はダメだ」という思い込みからきていました。

一つずつ思い込みを外して、自分の特性や気質を認められるようになったC子さんは「ポンコツな私も可愛いよねって思えるようになりました」「私はできる、大丈夫

って自信ができました」としなやかな個性と存在感を存分に発揮できるように。

仕事でも同僚が驚くほどに自信に満ちたパフォーマンスができるようになり、心置きなく何でも話せる彼ができ、ロマンチックなプロポーズを受けて入籍！

思い込みからくるブロックから抜け出して、幸せと輝きに満ちた本来のC子さんにふさわしい人生をスタートさせています。